

## 論説講評

今回の応募作品について共通していたことは、みなさんが電気について「こんな風に使っていたんだ」と再認識したことでした。ふだん気にしていなかったことが東日本大震災を機に考えるようになったということでしょう。

論説の審査では、自分の主張があるか、主張に論理性があるか、わかりやすく説明できているか、独創性があるか、などが基準とされています。今回の応募作品は全般的に良くまとまっていますが、独創性に欠けているようでした。

これはテーマの設定が非常に幅広く解釈できることから、生じた課題かもしれません。全般的にエッセイ風に流れた可能性があります。

奨励賞を受賞されたのは尾畑さんの「電気について考える」でした。評価としては、内容がしっかりしている、豊かな感性を感じる、完成度が高い文章だ、初めから終わりまで綺麗にまとまっている、などの声が上がりました。独創性をもっとあると良い、という指摘もありました。応募5作品の中で最も評価点が高かった理由は中学1年であることです。この年齢でよく書かけているという評価です。

佳作には津田さんの「持続可能なエネルギー源～節電～」と皆川さんの「もし電気を使わなかったら」が選ばれました。津田さんは発想がユニークでとても面白い指摘でした。しかし話がやや尻切れに終わっていることや、様々な読み取りが可能でもう少し解説が必要な結論にしてほしい、との指摘がありました。皆川さんは内容が等身大でよく書けており、とても素直な文章ですが、少しエッセイ風に流れているという評価でした。

朝蔭さんの作品は、内容に無理がないこと、学校での試みが素晴らしいことなどが評価されましたが、文章の連絡があまり良くないこと、自分の意見がやや弱いことなどが指摘されました。渡辺さんの作品は、電気という存在に初めて気が付いた感動が素直に伝わってきます。話の流れが自然で読みやすいことなどが評価されましたが、全体を通して具体性があるともっと良い、という指摘がありました。

今回も力作が寄せられましたが、もう少し応募数がほしいと思います。論説というジャンルの基準が分かりにくいためか、先生のご指導が難しいのかもしれませんが。しかし高校生や中学性の文章ですので多少エッセイ風に流れても良いと思います。自由な発想のもとに書いて、その中でどのように論理性、説得力を持たせるのかご指導いただければいいと思います。来年にはさらに多くの応募があることを期待しています。